

平成16年度決算報告

学校法人 千葉敬愛学園

学校法人千葉敬愛学園の平成16年度決算は、監事の監査及び公認会計士の監査を受け、平成17年5月26日（木）の理事会および評議員会において審議の結果、別表通り決定しました。

1 16年度主要事業

1. 千葉敬愛高等学校校舎建築事業（平成18年度までの継続事業）
平成14年度からの継続事業として平成16年度まで、体育館棟及び校舎A棟が完成。
総経費38億1,000万円のうち、平成16年度10億2,400万円支払済。支払累計額20億7,700万円。
体育館棟（長戸路7-ナ） 鉄筋コンクリート造地上3階、地下1階 3,529.54m²
特別教室棟（校舎A棟） 鉄筋コンクリート造陸屋根5階建 4,502.97m²
2. 経済学部大体育館用具庫改修工事
3. 佐倉キャンパス（国際学部および短期大学）学内LAN拡張工事
4. 短期大学音楽室（音楽研究室）等防音工事
5. 学園高校全館（本館・1号館・2号館・3号館）室内塗装工事
6. 千葉敬愛高校情報教育用機器購入
（私立学校IT教育推進設備整備事業/特別補助金該当）
7. 千葉敬愛高校防球ネット改修工事
8. その他
敬愛高校校舎建設に伴う電波障害対策工事

2 財務の概要

当期の予算の執行状況について、その概況を報告いたします。なお、金額は百万円単位として示しています。

(1) 資金収支計算書

(収入の部)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,993	3,993	0
手数料収入	111	112	1
寄付金収入	56	64	8
補助金収入	1,110	1,117	7
資産運用収入	22	54	32
資産売却収入	100	7	93
事業収入	20	28	8
雑収入	189	195	6
借入金等収入	700	700	0
前受金収入	1,932	1,812	120
その他の収入	562	601	39
資金収入調整勘定	2,088	2,112	24
(当年度収入計)	6,707	6,571	136
前年度繰越支払資金	4,271	4,271	
収入の部合計	10,978	10,842	136

資金収入合計は、予算と比べ1億3,600万円予算を下回りました。これは主に、17年度の入学金等の前受金および有価証券売却収入が予算を下回ったことによります。一方、資産運用収入および寄付金収入は予算を上回りました。また、今年度は修学旅行費預り金を計上しました。

今年度は、日本私学振興・共済事業団からの借入金7億円を予定どおり実行できました。この融資計画は、第2回目で敬愛高校校舎建築事業資金に充てるもので、総額23億5,000万円の計画によるものであります。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,667	3,696	29
教育研究経費支出	1,121	1,134	13
管理経費支出	205	196	9
借入金等利息支出	32	32	0
借入金等返済支出	72	72	0
施設関係支出	1,071	946	125
設備関係支出	119	152	33
資産運用支出	400	300	100
その他の支出	241	429	188
資金支出調整勘定	279	260	19
(当年度支出計)	6,649	6,697	48
次年度繰越支払資金	4,329	4,145	184
支出の部合計	10,978	10,842	136

当年度資金収支差額	58	126	184
-----------	----	-----	-----

上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額が一致しない場合があります。以下同様であります。

教職員の減少はあったものの、アルバイト等の増加などにより、人件費は予算を上回りました。

教育研究経費が予算を上回った主な要因は、敬愛高校校舎建設経費と光熱水費などが予算を上回りました。一方、保守衛生費などは予算を下回りました。

敬愛高校の校舎建設関係で一部設計変更による減少などにより予算を下回りました。

敬愛高校仮設校舎リース料の17年度分を建設仮勘定から清算したことによるものなどで予算を上回りました。

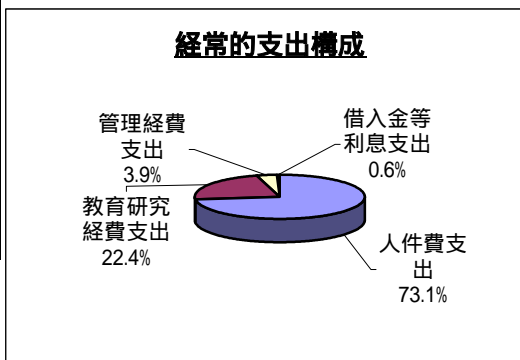
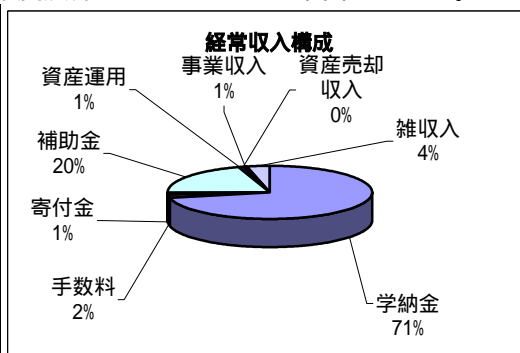
主な要因は、敬愛高校校舎建設事業の借入金7億円に対し、10億2,400万円の支払いを実行したことなどにより減少しました。

経常的収支計算書(資金収支計算書)

資金収支計算書の中から経常的な収支科目を比較しているものです。予算編成の中で、資産取得等の収支を除いた経常的な収支状況を示したものであります。

収入は予算を下回り、支出は予算を上回っているものの予算及び決算とも収支状況において、収入超過となりました。収支差額比率は、9.2%と前年度決算を 1.9ポイント下回りました。

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,993	3,993	0
手数料収入	111	112	1
寄附金収入	56	64	8
補助金収入	1,110	1,117	7
資産運用収入	22	54	32
資産売却収入	100	7	93
事業収入	20	28	8
雑収入	189	195	6
経常的収入計	5,601	5,570	31
人件費支出	3,667	3,696	29
教育研究経費支出	1,121	1,134	13
管理経費支出	205	196	9
借入金等利息支出	32	32	0
経常的支出計	5,025	5,058	33
経常的収支差額	576	512	64



(2) 消費収支計算書

(収入の部)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	3,993	3,993	0
手数料	111	112	1
寄附金	64	77	13
補助金	1,110	1,117	7
資産運用収入	22	54	32
資産売却差額	0	0	0
事業収入	20	28	8
雑収入	69	77	8
帰属収入合計	5,389	5,458	69
基本金組入額	870	417	453
消費収入合計	4,519	5,041	522

敬愛高校80周年記念事業特定公益増進法人寄付や受配者指定寄付金などの他、後援会、PTA等からの現物寄付により予算を上回りました。

資産運用収入は、特定資産などの有価証券などからの分配金及び施設利用料収入などで予算を上回りました。

帰属収入は、入学者数、志願者数、補助金は、ほぼ予算どおりでありますが、帰属収入全体では予算を上回りました。基本金組入れは、敬愛高校校舎の一部完成により基本金を清算したことにより減額して組入れた為、消費収入全体では、予算を上回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	3,522	3,551	29
教育研究経費	1,549	1,588	39
管理経費	215	205	10
借入金等利息	32	32	0
資産処分差額	273	280	7
徴収不能額	43	43	0
消費支出合計	5,634	5,699	65

教職員数は、前年度より減少していますが、定期昇給や臨時職員の増加などにより予算を上回りました。

敬愛高校の校舎建設関係の清算に伴ない特別経費を計上したため予算を上回りました。

上記の結果、帰属収支差額は予算を上回りました。今年度は敬愛高校校舎建設で既設校舎の取り壊しによる、校舎の残存価格を経常したことにより帰属支出超過の決算となりました。この特別経費を除くと帰属収入超過の決算とみる事ができます。

帰属収支差額	245	241	
消費収支差額	1,115	658	
前年度繰越消費収支差額			
累	1,499	1,499	
翌年度繰越消費収支差額			
累	2,614	2,157	

敬愛高校体育館棟を建設仮勘定からの清算に伴う経費の振り替えや既設校舎の除却による減少などの他、建設費の支払いによる増加によるものです。

(3) 貸借対照表

資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	14,487	14,119	368
有形固定資産	12,307	11,938	369
その他の固定資産	2,180	2,181	1
流動資産	4,805	4,788	17
合計	19,292	18,907	385

敬愛高校校舎建設事業による第2号基本金を施設整備特定資産へ振り替えの他、減価償却により減となりました。

校舎建設に伴う支払いによる減少と預り金などにより、流動資産全体では増となりました。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部	4,958	4,332	626
固定負債	2,555	1,950	605
流動負債	2,403	2,382	21
基本金の部	16,491	16,074	417
消費収支差額の部	2,157	1,499	658
合計	19,292	18,907	385

日本私立学校振興・共済事業団からの借入金（借入残高20億100万円）による増の他、退職給与引当金の減により負債は増となりました。

敬愛高校校舎に係る第2号基本金を計画どおり組入れた他、佐倉キャンパス、学園高校他で建物など取得相当額を基本金として組入れました。

<参考>

正味資産	14,334	14,575	241
正味資産 = 資産 - 負債 (正味資産 = 基本金 + 消費収支差額)			
減価償却額の累計額	4,390	4,187	203
基本金未組入額	1,551	1,312	239

3 今後の課題

私大を取り巻く情勢も、国立大学法人を含めた学生確保が熾烈を極め、帰属収支において支出超過校が急増しています。本学も当初予算から帰属支出超過のスタートで諸政策を展開したところがあります。

第二次中期経営計画（平成14年度～平成18年度）では、千葉敬愛高等学校校舎建設を最大事業として着実に実施しているところではありますが、逐年更新の中で敬愛大学改革と併せ稲毛キャンパス再開に取り組むこととして、今年度から委員会の設置を決定いたしました。この事業は、教学計画と施設計画の両面から改革を行う必要から財政面の対策が急務となります。その方策として、給与政策の見直しや資金計画など重要な課題が山積しています。

公教育を担っている学園の社会的使命や情報公開等の説明責任を果たしながら、更なる向上を目指し、改革をより一層推進する所存であります。